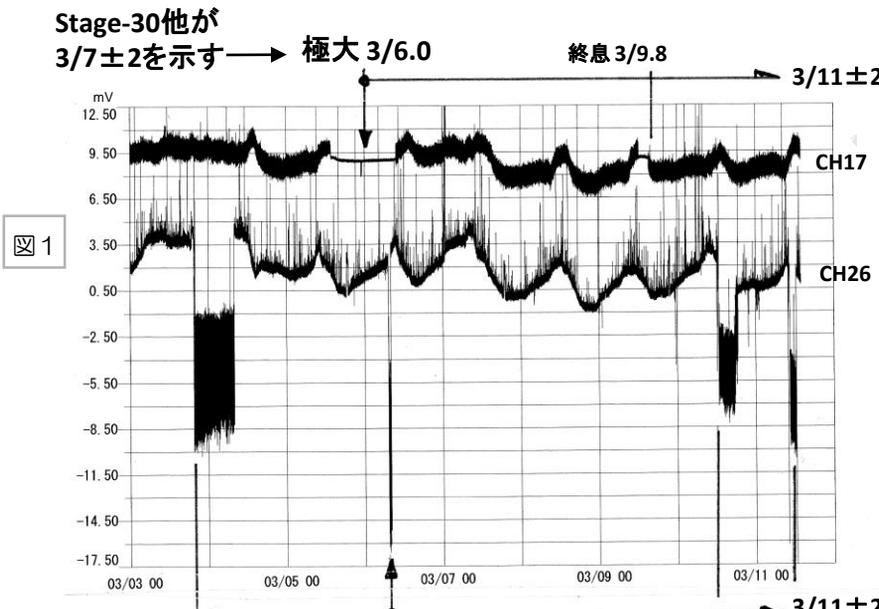


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

**No1778 長期継続前兆 推定された発生日に次々変動極大出現を観測 さらに修正
現状では 3月13日発生の可能性が示唆される**



◆Stage-30・別形態変動No3614は3/7±2を示しました。3/7±2は地震発生とならず、3/6・3/6.3に変動極大が出現しました。

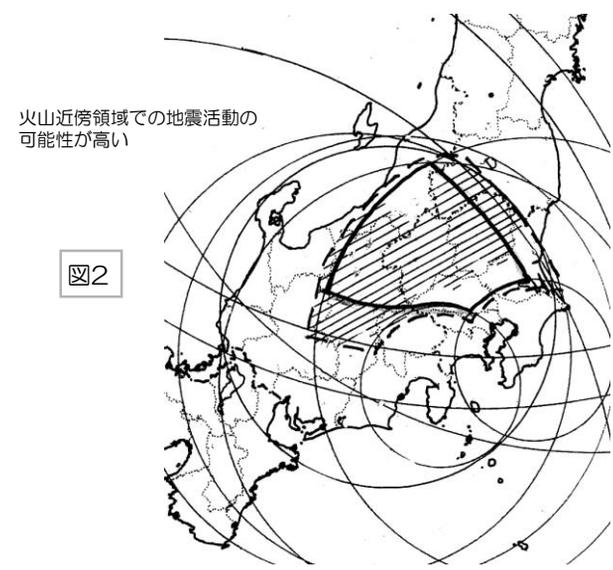
◆3/6極大のCH17と3/6.3極大のCH26は3/11±2を示しました。前情報では、この3/11を発生日の可能性としました。

◆しかし、本日3/11に図1のとおり、CH26に特異変動が観測され極大認識されます。本日の極大からは、3/13±2が示されます。

◆18年8ヶ月継続したNo1778前兆変動は、同様な形でStage-30まで継続しました。今回は非常に短い間隔でこの現象が現れています。

3/13±2にまた極大が出現する可能性も否定できませんが、現在までの間隔の縮小性を鑑みますと、±2日の誤差内となる可能性も考えられます。3/13±2に次のステージとなる変動の初現が見れない限りは、3/13±2発生の可能性が考えやすい状況です。

Stage-30他が 初現 3/3.7 → 極大 3/6.3
CH17・CH26が3/11±2を示す → 極大 3/11.5
3/13±2



- 推定領域：図2の点線領域内＝大枠推定領域
図2の太線領域内＝可能性が考えやすい
図2の斜線領域＝火山近傍で考えやすい推定領域
- 推定規模： M8.0±0.3
M7.7～M8.0の可能性考えやすい
または複合地震
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性 (例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)
- 推定時期： 3月13日±2 (最大誤差3月13日±3)
※3/13±3に初現または極大が出現して、次のステージに移行しない場合に限る。次ステージに移行の場合または上記時期に対応地震発生無き場合は再考し続報します

- 推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
- 推定発生日時刻：午前9時±2 or 午後6時±3 (複合地震では当てはまらない)